

明治大学ビジネススクール専門職大学院

グローバル・ビジネス研究科

全体テーマ『経営と CSR を考える』 第三回『東日本大震災と CSR』

講義の趣旨について

四回に亘る私の『経営と CSR を考える』シリーズの第一回は、『私の経営実践と企業経営の考え方』をお話し、第二回は『CSR の進化と発展』についてお話しした。今回は第三回で、『東日本大震災と CSR』と言うテーマでお話しする。

東日本大震災に対しては、日本だけではなく世界からも、多くの企業や個人が、物資や資金を供出し、直接・間接に支援に関わってきた。従来の、いわゆる社会貢献活動とは桁違いのスケールとレベル、そして長い時間軸で関与する企業が多く見られた。

しかし、このような企業行動を経営の中にどのように位置づけるのか？ステークホルダーズに対して合理的に説明できるのか？といった疑問も同時に挙げられている。

これは、企業の社会的な責任を企業経営の中にキチンと位置づける上で格好のモデルケースであると思う。また、海外の被災地を含めて、今後日本企業が持続的にこのような活動に参画してゆく上で、考え方を整理する必要がある。

このような作業を経て、我々の CSR はステップアップするのではないかと思うところでもある。

更に目線を上げれば、直線的な経済成長を追いかけてきた戦後の日本経済は、今成長の限界に直面しており、企業社会は 21 世紀における新しい日本企業の価値創造、リーダーシップのあり方、そして新たな成長力を作り上げてゆくことが求められている。

そのことに気づいた多くの企業経営者は、新しい経営のあり方、社会とのつながり方、更には人の働き方や生き方を模索し始めている。このような中から日本の新しい生き方、そして、持続的な発展の道筋が見えてくるのかもしれない。

今回はこのような問題意識でお話をしたい。